

虫生川の観察会を終えて[報告]①

川西生きもの研究会
R5. 8. 13[日]

虫生川下流域の水生生物の調査・観察会を実施、14名で1時間ほど採取活動、その後、調べ学習を行いました。約20種類、確認できました。



採取物を資料カップに入れて、調べました。



外来生物の紹介中



虫生川の観察会を終えて[報告]②

川西生きもの研究会
R5. 8. 13(日)

サワガニ: I 級指標生物



カワニナ: II 級



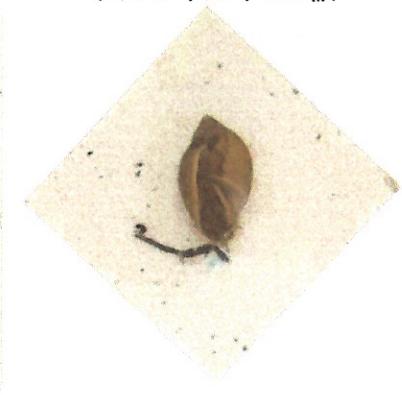
ヒメタニシ: III 級



ミズムシ: III 級



サカマキガイ: IV 級



ドンコ[ドンコ科]



マツモムシ



ヒメアメンボ



ニンギョウトビケラ



ヒラマキガイ類



カワヨシノボリ[ハゼ科]



コカクツツトビケラ



キリウジガガンボ



ニホンイモリ



幼体

カワムツ[コイ科]



トノサマガエル



メダカ[メダカ科]



ヒメダカなら、メダカの突然変異型(品種)の一つです。
ヒル類でシマイシビル、ヒラタビルも採取しました。

成体



水質階級Ⅰ級 9. サワガニ【沢蟹】

サワガニの全身



卵を抱えるメス



サワガニ【沢蟹】は、日本固有種で、青森県以南に生息し、一生を淡水域で過ごします。猪名川水系でも、川の最上流から上流域にかけて生息します。

沢蟹の和名どおり、水がきれいな渓流（沢）や小川に生息するので、生物学的水質判定法の水質階級Ⅰ（きれいな水）の指標生物に指定されています。岩陰などで冬眠します。

雑食性で、カワゲラ、トビケラなどの水生昆虫、ミズ、カタツムなどを食べます。天敵はカワセミ、サギのなかま、イノシシなどがあります。

春から初夏にかけて交尾を行い、その後メスは直径2mmほどの卵を数十個産み、腹帯の内側にある腹脚に抱えて保護します。

オスのおなか
腹帯が細い

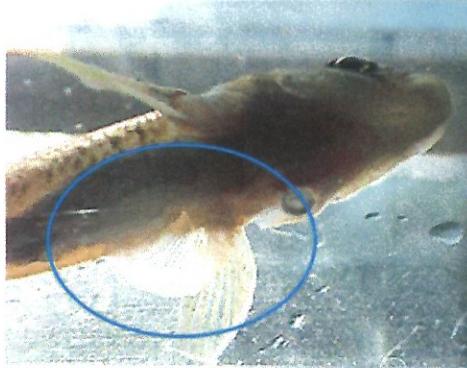


メスのおなか
卵を抱くため腹帯が太い



**腹びれを
比べてみよう！**
カワヨシノボリ【ハゼ科】
ドンコ【ドンコ科】

カワヨシノボリ【ハゼ科】



カワヨシノボリ：腹びれが吸盤になっている！

カワヨシノボリ
【ハゼ科】

P 10



水質階級Ⅱ級 6. カワニナ【川鼈】

繁殖期は春と秋で、雌は卵ではなく微小な仔貝を300～400匹ほど産み落とします。なお産卵前の仔貝は胎児殻と呼ばれ、その形態や数は種の識別の目安にされます。通常は殻頂が浸食によって失われます。

肉は食用になるが一般的ではありません。また、肺吸虫、横川吸虫等の第一中間宿主となることが報告されており、貝から人体に直接感染はしませんが、予防対策上注意が必要です。



P 6上



=オス・メスの見分け方=

両生類：里山に生きるイモリ

尾でわかります！
オス：尾が太い メス：比較的細い



お尻でわかります！
オス：雄株泄口が膨らむ メス：比較的小さい

カワヨシノボリ：腹びれが吸盤になっている！

招かれざる外来生物と特定外来生物被害防止法について

アメリカザリガニ:条件付特定外来生物



ウシガエル:特定外来生物



ミシシッピーアカミミガメ
条件付特定外来生物



2005年(平成17年)6月1日に

施行された日本の法律で、通称「外来生物法」または「特定外来生物被害防止法」と言います。外来生物による生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を防止することを目的としています。

日本の生態系に悪影響を与えたり、人の生活や農林水産業などに被害を及ぼすような外来生物を「特定外来生物」として指定しています。〔環境省〕

被害を減らすためには
外来生物被害予防三原則
を守る必要があります。

①入れない…

悪影響を及ぼすかもしれない
外来生物をむやみに日本に入れない！

②捨てない…

飼っている外来生物を野外に
捨てない！

③拡げない…

野外にすでにいる外来生物は
他地域に拡げない！

2004年(平成16年)制定

特定外来生物
被害防止法

入れない

捨てない

拡げない

